

イラクの子供たちはいつも消耗品

——マデレン・オールブライトから“セイブ・ザ・チルドレン”まで

【訳者注】この問題については、2014/12/1 掲載の「〈セイブ・ザ・チルドレン〉の“戦犯”トニー・ブレアへの功労賞授賞問題」を参照されたい。

問題は2つある——1) これほどの、特に子供に対する大犯罪を我々はほとんど知らされていないこと、2) その主犯に対して、子供の人権を護る団体から賞が与えられるように取り計らった、人を食った悪の権力者は誰かということ。

By Felicity Arbuthnot

February 7, 2015, Information Clearing House



告発される Tony Blair

「難しい選択ではありますが。しかし代価というなら、その代価は払うに値するものだったと私たちは考えています」——“通商禁止に関係する”50万のイラクの子供たちの死について、当時米国連大使 Madeleine Albright 発言、1996年5月12日

「地上で最もトラウマに苦しんでいる子供集団」——ノルウェーBergenの“危機研究センター”教授 Magne Raundalen、1992年2月

トニー・ブレアが、どうにも考えられないことだが、2014年11月19日、“セイブ・ザ・チルドレン”（「子供を救え」という名の団体）から、グローバル・レガシー賞を与えられた。

彼は受賞スピーチでこう言った——「私の思いは、あらゆる挑戦、我々が克服し打ち勝とうとするあらゆる悲慘や貧困にとらわれています。…何か希望的なもの、感謝すべきものが現れています。」

皮肉なことに、それよりほんの3か月前（8月15日）に、「セイブ・ザ・チルドレン」は、11年続いたブッシュ-ブレア主導の不法な侵略と、現行の紛争に伴う結果としての、北部イラクだけに限ったイラクの子供たちの中の、トラウマの実態を公表した。イラクの子供たちに「希望的なもの」も「感謝すべきもの」も、現れていないことは明らかだった。

<http://www.savethechildren.net/article/increasing-number-iraqi-children-displaying-signs-trauma-after-fleeing-violence-north>

にもかかわらずブレアは、「我々は、いかなる子供も予防しうる原因で死ぬことなく、すべての子供が栄養ある食物と清浄な水をもつ、未来を目指しています」と公言している組織から、賞を与えられた。

もしブレアが、イラクは“45分以内に”全土を壊滅させることのできる大量破壊兵器をもっているという、幻想にすぎない主張をせず、コリン・パウエルが、2003年2月5日、今からちょうど12年前に、このウソを国連で引用することがなかったら、イラクの子供たちは、ジェノサイドという「予防しうる原因」を避けられたかもしれない。

「栄養ある食物と清浄な水」は、もちろん、イラクのすべての給水施設の爆撃を命じた米中央司令部によって、1991年、故意に破壊された。食物は、すべての動植物を汚染させる使用済みウラン兵器（DU）の使用によって毒された。DUの半減期は45億年で、それは“使用済み”（depleted）ではない。

汚染の悪夢は、2003年再び、ブレア政権のイギリスによるDU兵器のさらなる使用によって、何倍にも増加した。Daily Hasard—Written Answers, 22 July 2010. Column 459W, Depleted Uranium. (最後の質問までスクロールせよ)

<http://www.publications.parliament.uk/pa/cm201011/cmhansrd/cm100722/text/100722w0001.htm#10072259000012>

空気と水と食物の永久的な汚染は、イラクやその近傍の、今から生まれる子供、新生児、発育中の子供たちの未来の世代を、何世代にも及んで、癌や奇形という毒の遺産へと運命づけるだろう。歴史上、比べるもののない戦争犯罪だ。

それだけではない——「国連の人権推進保護下部委員会は、DU兵器を、現存の人道主義法

のもとで違法と宣言している。DU兵器はまた、アメリカが1975年にサインした、“戦時のガス使用に関するジュネーブ議定書”に違反する、有毒金属ガスをつくり出す。」

<http://truth-out.org/archive/component/k2/item/68824:craig-etchison--depleted-uranium-pernicious-killer-keeps-on-killing>

さらに、13年間の、米英の先導する通商禁止から生じた、“通商禁止関係を原因とする”1カ月に平均6,000人の子供の死の後で、国連によれば、ブレア首相は、子供たちに対する戦争を使喚する中心人物だった——

2003年には、イラクの人口はたった2,400万だった。その40パーセント以上が0~14歳で、この国の中間年齢は19歳だった。

http://www.indexmundi.com/en/facts/2003/iraq/demographics_profile.html

終わりのない戦争に入って7年目の2010年までに、イラクの子供たちの4分の1以上が、PTSD（心的外傷後ストレス傷害）に苦しんでいる（War Child Report, May 2013）。この報告発表の前の5か月間に、700人の子供と若者が殺されたが、この数字は、イラクではすべてそうだが、ほとんど確実にかなり過小な見積もりである。財政的逼迫と、権威への恐れと、旅行の危険などがあって、多くの死が記録されていない。

また2010年には、DUの使用に係る癌、白血病、また奇形児の研究が、「癌の増加が甚だしく、白血病は38倍、乳癌は10倍の増加を示し、乳幼児の死亡率もまた驚愕すべきもの」であることを証明した、と著者の一人の科学者Malak Hamdanは述べている。

<http://rt.com/news/uk-iraq-depleted-uranium/>

「私たちは子供たちに投資しています——危機の時代も、未来に向けても、毎日怠ることなく。私たちは子供たちを、健全な状態で出発させ、学ぶ機会と、害悪からの保護を与えています」と、“セイブ・ザ・チルドレン”はフェイスブックで主張している。

彼らは、2012年11月から現在に至る、月毎の、死と傷害の総体についての国連報告——涙を誘う、心の萎える報告——を読むことによって、彼らのグローバル功労賞を取った人が、イラクの子供たちについて言ったことを、急いで調べてみるべきだ。報告を見る限り、2014年は「2008年以来の最も恐ろしい年」だった。そして2008年は、2005年以来、決して終わらなかったイラクの毎年の地獄の、最も恐ろしい年だった。この数字は、ブレアの墓石に刻むべきものだ。

http://www.uniraq.org/index.php?option=com_k2&view=itemlist&task=category&id=159:civilian-casualties&Itemid=633&lang=en

トニー・ブレアと、この侵略の共犯者たちが、クリスマスと新年を祝っていた 2015 年 1 月 1 日、こういう知らせが入った——「きょう、UNAMI（イラクのための国連援助ミッション）の発表した死亡者数によると、テロと暴力行為によって、12 月中に殺されたイラク人の総数は 1,101 人、負傷者は 1,868 人に及ぶ。」

明けて 2015 年 1 月も、改善の兆しは見えなかった。

もちろん前に述べたように、1991 年の大殺戮の後も、米英の飛行機は、通商禁止による徹底した剥奪の数年から、2003 年の電撃作戦と侵略まで、イラクを、しばしば毎日、不法に爆撃し続けた。この犯罪的襲撃は、ブレア政府の下で強化された。

例によって、子供たちが犠牲者の大多数を占めた。あるバグダッド攻撃の後、その主要な孤児院の子供たちは再びベッドで眠ろうとはせず、わずかにより安全と思えたベッドの下で、抱き合って眠った。

羊や山羊の群れが日常的に爆撃されたとき、イラク人は、自分たちはすべての食糧を奪われるものと確信した——すべての家畜のほぼ 50 パーセントが、狙われ殺されたからである。貴重なナツメヤシも同じように破壊された。子供の羊飼いたちが、羊たちと一緒に粉々になって吹き飛ばされた。

ついでに言うと、これも前に言ったことだが、私がブレアの防衛省へ電話して、なぜ彼らは、両手の指の数にも満たぬ年齢の、幼い子供たちがいつも面倒を見ている、これらの羊の群れを標的にするのかと訊ねたとき、報道官は慌てることなく、「我々は脅迫されているときには、しかるべき行動を取る権利を保有している」と答えた。

賞を受けるとき、ブレアはこうも言った——「我々が祝っているのは、シニシズム（冷笑）とは反対のもの、楽観主義の理由となるものだ。」あなたがイラクやアフガニスタンに住む子供なら、祝うわけにいかない。後者もまた、彼の軍隊の助けによって殺され侵略された。

イギリスでは、Miranda Pinch がこの授賞に激怒し、直ちに、ブレアにこの栄誉を与えることを非難する要望書を起草すると、これには 125,000 名の署名が集まった。彼女は、“38 Degrees”（イギリスの非営利・非政治活動キャンペーン組織）の Robin Priestly と作家の Miranda Landgraf と共同で、1 月 13 日、「セイブ・ザ・チルドレン英国」の政策・唱導ディレクター Brendan Cox にこれを手渡した。

<https://you.38degrees.org.uk/petitions/stop-save-the-children-charity-from-giving-tony->

[blair-their-annual-global-legacy-award](#)

ランドグラフは、かぎ針編みを専門とする人だったので、「490 個のかぎ針編みの花のそれぞれに、ガザの子供犠牲者の名前と年齢を添えたものが入った、3つの籠を、ブレンダン・コックスに手渡した。無数のもっと多くの花を、ブレアがいろんな役職で監視していた中東全体で死んだ、無実の子供たちを表すものとして、作ることもできただろう」と、ミランダ・ピンチは、その面会を詳しく説明している。

ブレンダン・コックスは、ブレアの破壊行為と、その同僚 Justin Forsyth の“判断の過ち”について、公的声明を出すことに同意した。

フォーサイスは、ブレアの元特別アドバイザーで、現在は「セイブ・ザ・チルドレン英国」のチーフになっている。彼がブレアに授賞招待状を自ら手渡したのだった。

この会合といくらかの交渉の後で、ミランダ・ピンチは、ブレンダン・コックスから手紙を受け取った。そこにはこう書いてあった――

<http://www.globalresearch.ca/the-campaign-to-revoke-war-criminal-tony-blairs-global-legacy-award-save-the-children-stc-responds-and-apologizes/5428784>

ご存知のように、これは「セイブ・ザ・チルドレン米国」によってなされた決定です。だから、私たちはこの決定のことは知らされていて、その招待状を、要求された通り、彼の事務所へ届けはしましたが、私たちはこの決定の過程に関わってはいませんでした。今考えれば、これが巻き起こすかもしれない論争を、我々は予見すべきでした。

確かに彼らは予見すべきだった！

多くの理由で、これは「セイブ…英国」であれば、下せたような決定ではありません。

理解しかねるのは次の箇所である――

これは、トニー・ブレアが、アフリカについて示したリーダーシップに対する褒章に値しないからではなく――彼はそれに値します――彼の他の行動、特に「セイブ・ザ・チルドレン」が当時は強く反対していたイラクでの行動が、英国の一般大衆が彼をどう見るかに、影を投げかけているからです。

もちろんブレアは、アフリカのある疑わしい、人権を護ると称する殺し屋たちに忠告したこ

とで大きく稼いだ。彼の [African Governance Initiative](http://www.africagovernance.org/africa/pages/our-approach) というウェブサイトから引く——
<http://www.africagovernance.org/africa/pages/our-approach>

AGI は現在、ルワンダ、シエラレオネ、リベリア、ギニア、ナイジェリア、セネガル、その他、新しく見えてきた国々で働いている。我々は2つのレベルで働いている。政治的リーダーシップのレベルでは、トニー・ブレアが10年間の首相経験を基に、リーダーの職にあった者しか与えることのできない、改革の忠告を与えている。

唾然とする傲慢は別としても、彼の「10年間の首相経験」には、子供たちとその家族を消し去ったこと、不法な侵略を正当化する虚偽に関わったこと、もう一つ別（アフガニスタン）の侵略を指令したこと、また前ユーゴスラビアでの殺戮が含まれるが、どうしてこういう所業が「彼にしかできない改革の忠告を与えた」ことになるのか——これは精神分析医でないとわからない。

彼が1997年から首相として、イラクの通商禁止に直接かかわったこと、それに続いて不法な侵略を行ったことは、「影を投げかける」などというものでなく、ジェノサイドである。

ブレンダン・コックスの手紙で愕然とするのは、「この賞の背後にある意図は、開発に関する政治的リーダーシップを刺激し認めることだった」という一文である。

「開発に関するリーダーシップ」？ 「文明の揺籃」の地に対するブレアの破壊命令は、1258年にバグダッドを破壊したモンゴルの遊牧民を凌ぐものだ。

ブッシュとブレアの攻撃によって消失したのは、全国に存在する、かけがえのない考古学的宝物、古代の図書館、手稿、記念碑、それにインフラストラクチャー、社会的ストラクチャー、教育、医療、福祉、またすべての市民記録——出生、死、結婚、土地登記、国家保管文書——環境、社会的秩序にまで及んでいる。

「セイブ・ザ・チルドレン」の共同創始者 Eglantyne Jebb が、英国にこの組織を設立したのは、第一次大戦後のヨーロッパとロシアの悲劇に対する反応だった——

（彼女は）子供の権利と福祉を、全世界の主要な問題にしようと考えた。彼女の「子供の権利宣言」は、国連（国際連合）の前身である「国際聯盟」によって採択され、現在の国連の「児童の権利に関する条約」の契機となった。

電話によって「セイブ・ザ・チルドレン・インターナショナル」の本拠が、今もロンドンに

あることを確かめた上で、私はこう e メールした——

私の質問の主旨はかなり幼稚園的なものです。もし、私が理解している通り、(ロンドン中央の) オレンジ通りが「セイブ…インターナショナル」の“ヘッド・オフィス”であるなら a) なぜ彼らは、トニー・ブレアへの授賞に関して相談を受けなかったのですか？ b) なぜ彼らは、その取り消しに発言できなかつたのですか？

今に至るも返事はない。

(フェリシティ・アーバスノットは、イラクに関して特に詳しい知識をもつジャーナリスト。Nikki van der Gaag との共著に、World Almanac ブックス、Great City シリーズの *Bagdad* がある。彼女はまた、2つの授賞したイラクに関するドキュメンタリーの中心研究員でもあった——John Pilger: *Paying the Price: Killing the Children of Iraq*; Denis Halliday: *Returns for RTE (Ireland)*)